日本ライフライン株式会社

2008 年 3 月期中間決算説明会資料解説

本解説は、決算説明会資料の補足説明を目的としており、決算説明会の議事や発言をそのまま記録したものではありません。
また、本解説の記載内容のうち、歴史的事実ではない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。
実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響をうけますので、これらの予測へ過度に依存されないようお願いします。

日本ライフライン株式会社
2008年3月期中間決算説明会

＜説明会開催概要＞
■開催日時；2007年12月4日　10:00～10:40
■会　　場；日本証券アナリスト協会会議室
■参　加　者；証券アナリスト、機関投資家等約25名
■発表内容；
(1)「2008年3月期中間決算報告および2008年3月期通期業績予想」
・・・常務取締役管理本部長　政次　浩二
(2)「今後の課題と展望」・・・代表取締役社長　鈴木　啓介

Japan Lifeline Co., Ltd.

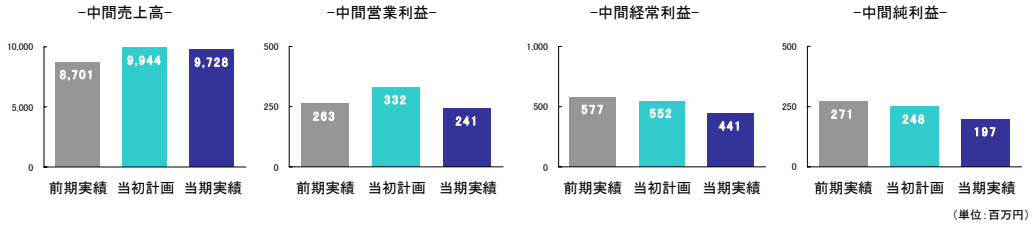
2008年3月期中間決算報告
2008年3月期通期業績予想

常務取締役管理本部長
政 次　浩　二

Japan Lifeline Co., Ltd.

2008年3月中間期業績

（単位：百万円）	２００７／３ 中間実績	２００８／３ 中間計画	2008/3中間実績 金額	前期比増減率	計画比増減率
売上高	8,701	9,944	9,728	11.8%	△2.2%
営業利益	263	332	241	△8.2%	△27.2%
経常利益	577	552	441	△23.6%	△20.1%
中間純利益	271	248	197	△27.1%	△20.3%



2007/12/4 3

本中間期の当社業績に影響を与えた事項として、以下の3点があげられます。

(1)ペースメーカ等のリズムディバイスの復調
昨年6月にペースメーカおよびICDにおけるリコールが発生し、リズムディバイスの売上が低迷しておりましたが、ほぼその影響は払拭されました。

(2)保険償還価格
保険償還価格の引き下げ対象が一部商品に限定されたことから、全般的に売上数量増が売上高の増加にダイレクトに繋がりました。

(3)主力商品の仕入先変更
当社の主力であるリズムディバイス関連の商品について、新たにイタリアのソーリン・グループ傘下のエラ・メディカル社と独占販売契約を締結いたしました。また、同時に、同社商品を販売していた日本法人であるソーリン・グループ・ジャパン株式会社を買収、吸収合併いたしました。

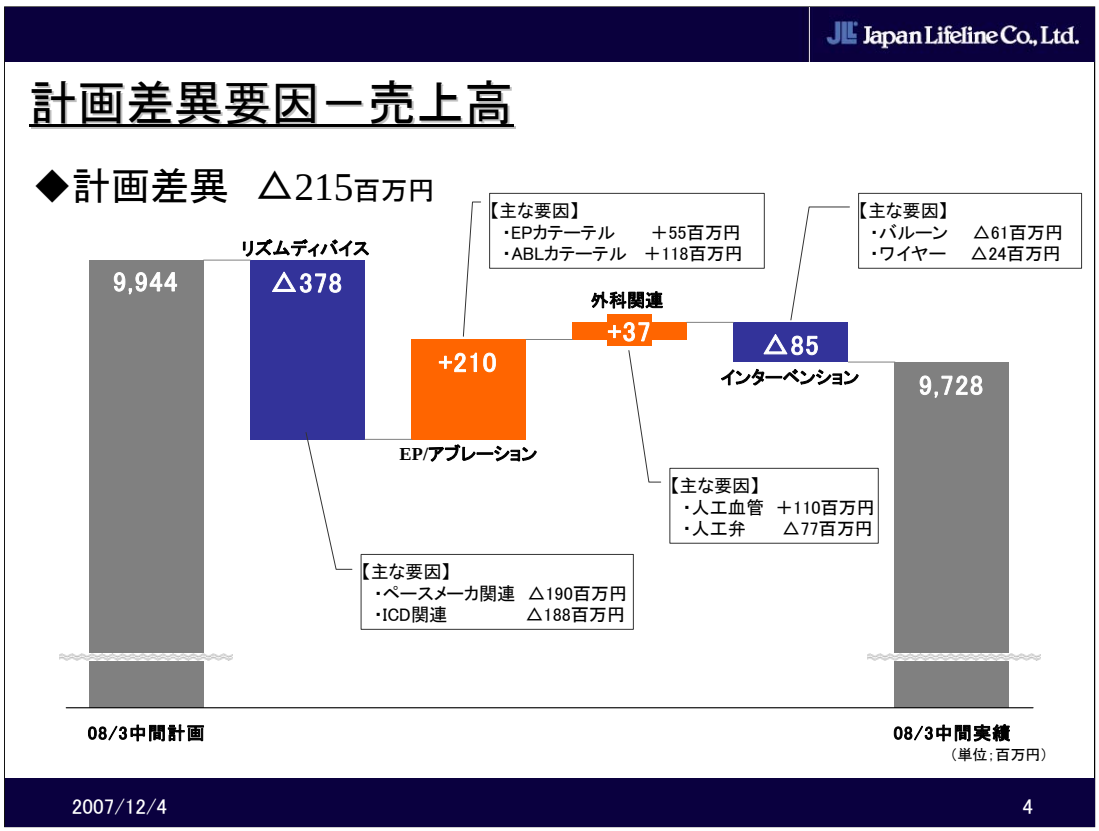
売上、利益におけるポイントにつきましては、以下のとおりです。

◆売上高
リズムディバイスが好調に推移したこと等から、前年同期比11.8%増となりましたが、当初計画を2.2%下回る9,728百万円となりました。

◆営業利益
粗利益率は当初計画通りとなりましたが、売上高が計画を下回ったことから、当初計画を27.2%下回る241百万円となりました。
なお、粗利益率が前年同期に比べて低下した理由といたしましては、他の商品に比べ、売上単価は高いものの、粗利益率が劣るCRT-Dの売上が伸びたこと、また、人工血管の保険償還価格が今年の1月、4月の二度にわたり、合わせて約20%の引き下げが行われたことがあげられます。

◆経常利益
営業外収益として、受取保険金及び配当金等を245百万円計上する一方、営業外費用として、為替差損等を46百万円計上したことから、当初計画を20.1%下回る441百万円となりました。
為替差損につきましては、今回契約したエラ・メディカル社との長期契約金を長期未払金に計上したため、これを時価評価したことに伴い発生いたしました。

◆中間純利益
特別利益として、投資有価証券売却益等を54百万円計上する一方、特別損失として、固定資産廃棄損等を49百万円計上したことから、当初計画を20.3%下回る197百万円となりました。



◆リズムディバイス
ペースメーカが昨年のリコールの影響をほぼ払拭し、前年同期を上回る水準まで回復いたしましたが、当初計画を190百万円下回りました。
また、CRT-D（ICD関連に分類）も昨年12月の発売開始以来好調に推移し、リズムディバイスの売上高に大きく寄与いたしましたが、当初計画を196百万円下回る結果となりました。
以上の結果、リズムディバイスの売上高は当初計画を378百万円下回る、5,068百万円となりました。

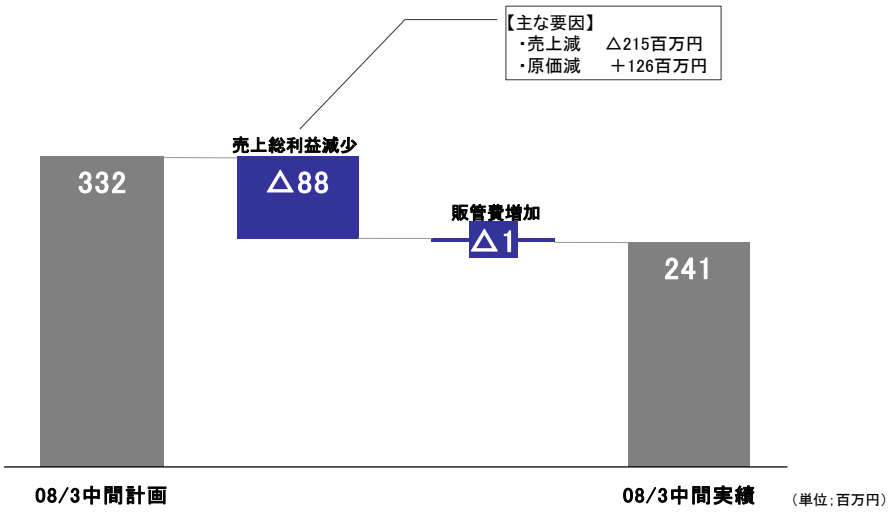
◆EP/アブレーション
自社製品としての強みを活かし、医療現場のニーズを的確に反映した製品開発を行ってきたことに加え、きめ細やかな営業活動を展開したことから、EPカテーテルは55百万円、アブレーションカテーテルは118百万円、当初計画を上回りました。
以上の結果、EP/アブレーションの売上高は当初計画を210百万円上回る、1,556百万円となりました。

◆外科関連
人工血管が保険償還価格引き下げの影響を受けましたものの、売上数量増により、当初計画を110百万円上回る結果となりました。
また、人工弁につきましては、近年、当社が取り扱っております機械弁から、生体弁や弁形成術へと治療のトレンドが変化しており、機械弁の市場自体が縮小していることから、当初計画を77百万円下回る結果となりました。
以上の結果、外科関連の売上高は、当初計画を37百万円上回る、1,907百万円となりました。

◆インターベンション
心房中隔欠損閉鎖器具「アンプラッツァー」や血栓異物除去カテーテル「フィルトラップ」といった、特長があり、他社と差別化された商品につきましては、ほぼ計画通り進捗いたしました。
しかしながら、既存商品においては競争環境が厳しく、ガイドワイヤーは24百万円、バルーンカテーテルは61百万円、当初計画を下回りました。
以上の結果、インターベンションの売上高は、当初計画を85百万円下回る、1,196百万円となりました。

計画差異要因ー営業利益

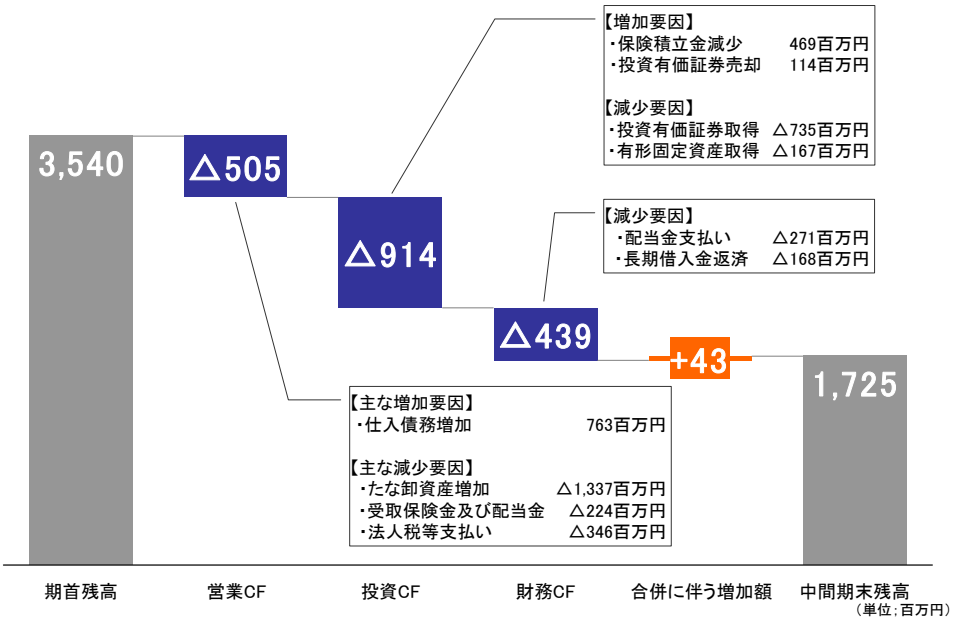
◆計画差異　△90百万円



◆売上総利益
売上総利益率は当初計画通りの44.1%となりましたが、売上高が当初計画を下回ったことから、当初計画を88百万円下回る4,292百万円となりました。

◆販売費及び一般管理費
売上高販管費比率が当初計画を上回る41.6%となったことから、当初計画を1百万円上回る4,048百万円となりました。この主な原因といたしましては、エラ・メディカル社商品の販売開始および合併に伴う費用が発生したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況



◆営業キャッシュ・フロー
エラ・メディカル商品の販売開始に伴う初期在庫の積み増しにより、仕入債務が763百万円増加した一方、たな卸資産が1,337百万円増加したこと等から、505百万円の支出超過となりました。

◆投資キャッシュ・フロー
ソーリン・グループ・ジャパン株式会社の株式取得等による投資有価証券の取得により735百万円支出したことから、914百万円の支出超過となりました。

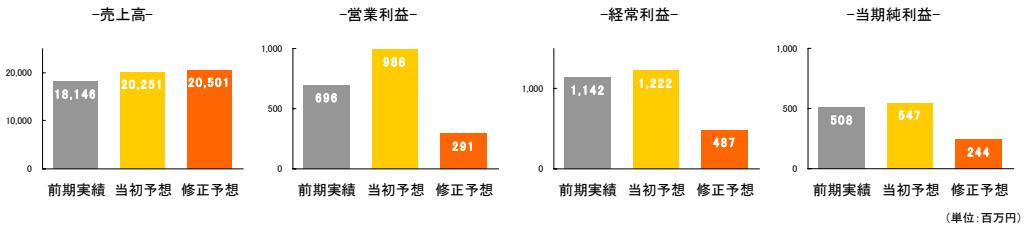
◆財務キャッシュ・フロー
配当金の支払や長期借入金の返済により、439百万円の支出超過となりました。

◆中間期末残高
合併に伴う増加額である43百万円を加算した結果、中間期末残高は1,725百万円となりました。

Japan Lifeline Co., Ltd.

2008年3月期通期業績予想

（単位：百万円）	２００７／３ 実績	２００８／３ 当初予想	2008/3修正予想 金額	前期比増減率	当初予想比増減率
売上高	18,146	20,251	20,501	13.0%	1.2%
営業利益	696	988	291	△58.1%	△70.5%
経常利益	1,142	1,222	487	△57.3%	△60.1%
当期純利益	508	547	244	△51.8%	△55.3%



2007/12/4 7

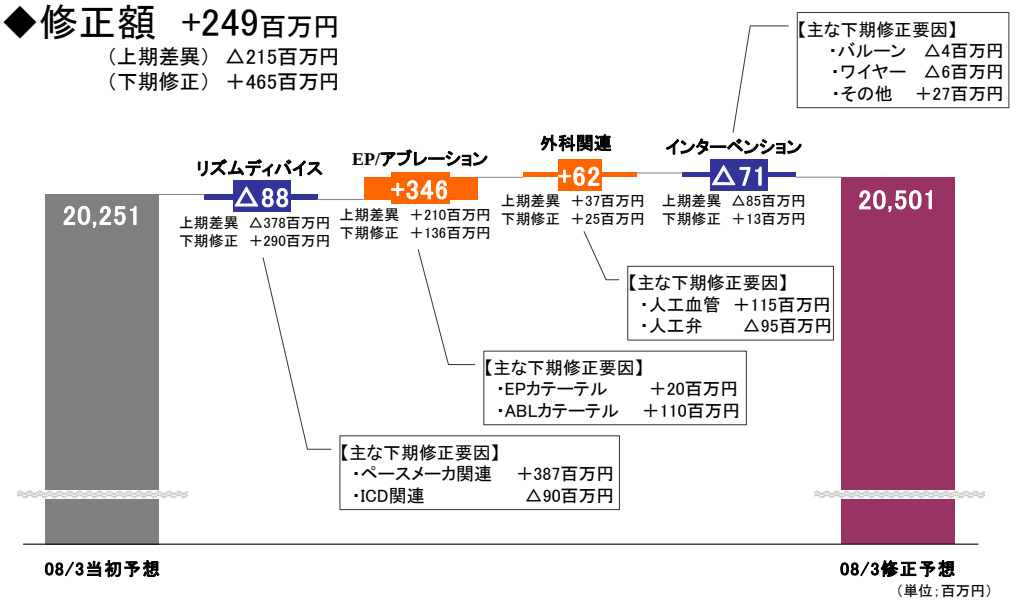
当初予想発表時には織り込んでおりませんでした、エラメディカル社との独占販売契約の締結およびソーリン・グループ・ジャパン株式会社の合併を行った影響から、通期業績予想を修正しております。

ソーリン・グループとの一連の取引により、仕入条件改善に伴う粗利益率の上昇や市場シェア拡大による売上増等の効果を見込んでおります。

しかしながら、既存商品からの置き換えには多少時間を要するため、今期における仕入先変更等の効果は限定的である一方、関連する費用が先行して発生していることから、利益の減少を見込んでおります。

業績予想修正要因－売上高

◆修正額　+249百万円
（上期差異）　△215百万円
（下期修正）　＋465百万円



◆リズムディバイス
ソーリン・グループ・ジャパンとの合併効果等により、ペースメーカの伸びが期待できることから、当初計画から290百万円上方修正いたしましたが、上期実績が378百万円の計画未達となっていることから、通期の売上高は、当初計画を88百万円下回る、10,890百万円を見込んでおります。

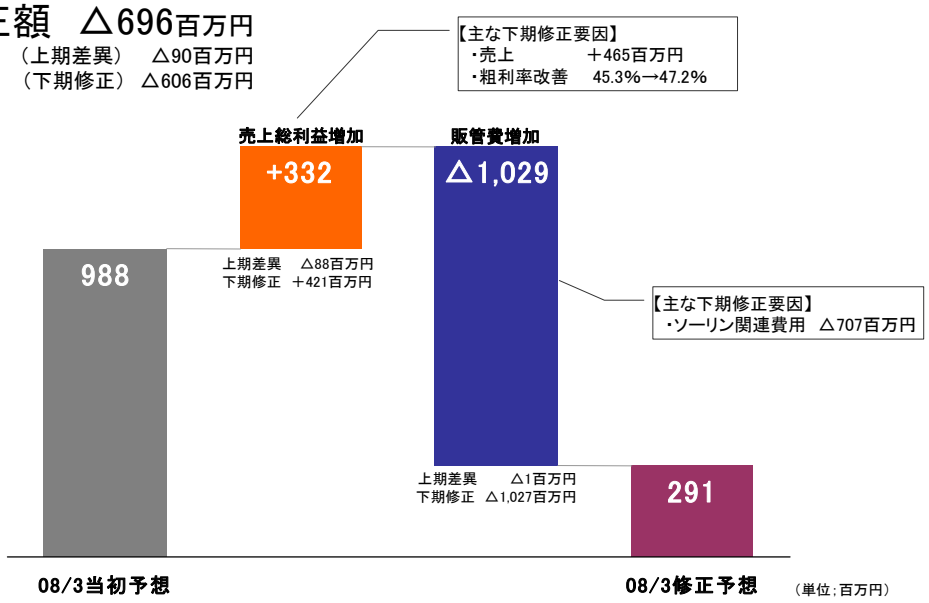
◆EP/アブレーション
下期も引き続き好調に推移することが見込まれるため、下期計画を当初計画から136百万円上方修正し、通期の売上高は、当初計画を346百万円上回る、3,085百万円を見込んでおります。

◆外科関連
上期同様、下期においても人工血管が好調に推移する一方、人工弁の減少が見込まれるため、下期計画を当初計画から25百万円上方修正し、通期の売上高は、当初計画を25百万円上回る、3,955百万円を見込んでおります。

◆インターベンション
血栓異物除去カテーテル「フィルトラップ」（インターベンションその他に分類）の伸びが期待できることから、下期計画を当初計画から13百万円上方修正いたしましたが、上期実績が85百万円の計画未達となっていることから、通期の売上高は、当初計画を71百万円下回る、2,570百万円を見込んでおります。

業績予想修正要因ー営業利益

◆修正額　△696百万円
（上期差異）　△90百万円
（下期修正）　△606百万円



2007/12/4　9

◆売上総利益
下期は、売上高の増加に加え、粗利益率が当初計画の45.3%から47.2%へ改善する見込みであることから、当初計画を421百万円修正いたしました。これにより、上期の計画未達分を吸収し、通期では、当初計画を332百万円上回る、9,380百万円を見込んでおります。

◆販売費及び一般管理費
エラ・メディカル社商品の販売開始に伴う広告宣伝費の増加や、ソーリン・グループ・ジャパン株式会社の合併に伴う人件費の増加等により、下期は、当初計画を1,027百万円修正いたしました。このことから、通期では、当初計画を1,029百万円上回る、9,089百万円を見込んでおります。

補足データ

（単位：百万円）	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3（予）
設備投資額	190	173	271	144	425
減価償却費	278	223	211	150	249
研究開発費	110	151	257	202	227
期末従業員数	328名	346名	364名	370名	435名

(資料)要約損益計算書

(単位:百万円)	2007/3期				2008/3期					
	中間期		通 期		中間期実績			通期予想		
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	前期比	金 額	構成比	前期比
売 上 高	8,701	100.0%	18,146	100.0%	9,728	100.0%	11.8%	20,501	100.0%	13.0%
売 上 原 価	4,617	53.1%	9,575	52.8%	5,435	55.9%	17.7%	11,121	54.2%	16.1%
売上総利益	4,083	46.9%	8,570	47.2%	4,292	44.1%	5.1%	9,380	45.8%	9.4%
販 管 費	3,820	43.9%	7,874	43.4%	4,050	41.6%	6.0%	9,089	44.3%	15.4%
営 業 利 益	263	3.0%	696	3.8%	241	2.5%	△8.2%	291	1.4%	△58.1%
営業外収益	326	3.8%	467	2.6%	245	2.5%	△24.7%	263	1.3%	△43.6%
営業外費用	12	0.1%	21	0.1%	46	0.5%	278.7%	67	0.3%	217.1%
経 常 利 益	577	6.6%	1,142	6.3%	441	4.5%	△23.6%	487	2.4%	△57.3%
特 別 利 益	36	0.4%	111	0.6%	54	0.6%	50.1%	77	0.4%	△30.4%
特 別 損 失	23	0.3%	61	0.3%	49	0.5%	107.8%	50	0.2%	△17.4%
税 前 利 益	590	6.8%	1,192	6.6%	446	4.6%	△24.4%	514	2.5%	△56.8%
法 人 税 等	318	3.7%	684	3.8%	248	2.6%	△22.0%	270	1.3%	△60.5%
純 利 益	271	3.1%	508	2.8%	197	2.0%	△27.1%	244	1.2%	△51.8%

（資料）セグメント別売上高

（単位：百万円）	2007/3期 中間期 金額	2007/3期 通期 金額	2008/3期 中間期実績 金額	2008/3期 中間期実績 前期比	2008/3期 通期予想 金額	2008/3期 通期予想 前期比	備考
ペースメーカ関連	3,859	7,609	3,927	1.8%	8,435	10.9%	
ＩＣＤ関連	591	1,601	1,106	87.0%	2,391	49.3%	CRT-D含む
その他	24	50	34	40.1%	63	25.7%	
リズムディバイス計	4,475	9,261	5,068	13.3%	10,890	17.6%	
ＥＰカテーテル	535	1,099	639	19.5%	1,287	17.1%	自社製造製品
ＡＢＬカテーテル	703	1,468	852	21.2%	1,700	15.9%	自社製造製品
その他	36	76	64	77.9%	96	26.6%	
ＥＰ／ＡＢＬ計	1,274	2,644	1,556	22.1%	3,085	16.7%	
人工弁	538	1,063	457	△15.1%	928	△12.7%	
人工肺関連	260	492	235	△9.9%	492	△0.1%	
人工血管	1,245	2,704	1,213	△2.6%	2,532	△6.3%	
その他	0	1	1	522.0%	1	△13.3%	
外科関連計	2,045	4,261	1,907	△6.8%	3,955	△7.2%	
バルーン	586	1,183	578	△1.4%	1,242	4.9%	
ガイドワイヤー	216	448	219	1.4%	470	5.0%	自社製造製品
アンプラッツァー	71	197	144	100.5%	305	54.4%	
その他	30	149	254	726.8%	552	270.8%	フィルトラップ含む
インターベンション計	905	1,978	1,196	32.1%	2,570	29.9%	
合計	8,701	18,146	9,728	11.8%	20,501	13.0%	

Japan Lifeline Co., Ltd.

今後の課題と展望

代表取締役社長
鈴 木 啓 介

ソーリン・グループとの契約締結について

(1)エラ・メディカル社製CRM製品の独占販売契約

－品 目:エラ・メディカル社製のCRM製品

ペースメーカ、ICD、CRT-D、ホルター心電計等

－期 間:2007年9月1日から10年間(以後2年毎の自動更新)

(2)ソーリン・グループ・ジャパン(SGJ社)の買収・合併

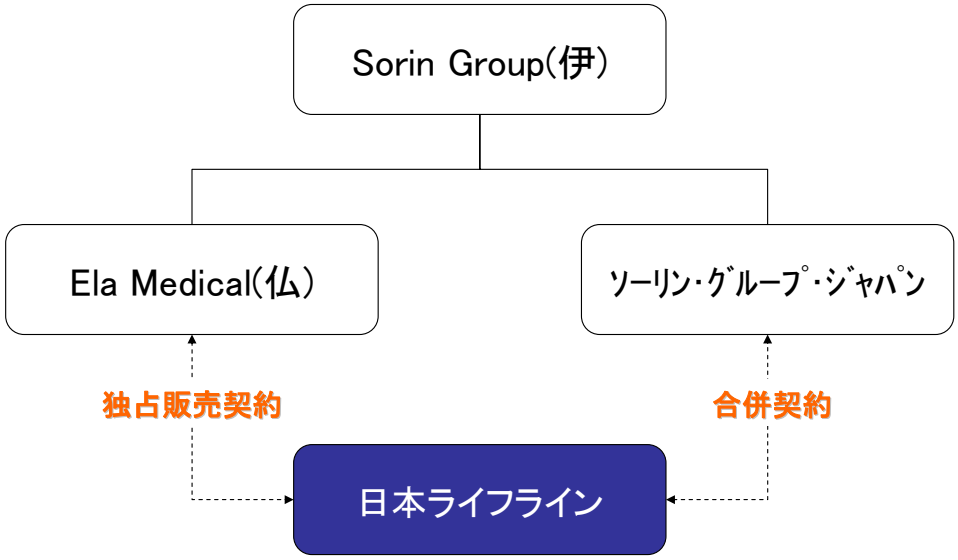
－ソーリン・グループ傘下　エラ社製品の日本販売子会社

－2007年8月31日　完全子会社化

9月　1日　吸収合併

ソーリン・グループとの契約につきましては、(1)エラ・メディカル社のCRM製品の独占販売契約と、これに伴う(2)ソーリン・グループ・ジャパン株式会社の買収・合併の2つとなります。

契約関係概略図



契約当事者であるエラ・メディカル社およびソーリン・グループ・ジャパン株式会社は、ともにイタリアのソーリン・グループ傘下の企業であります。

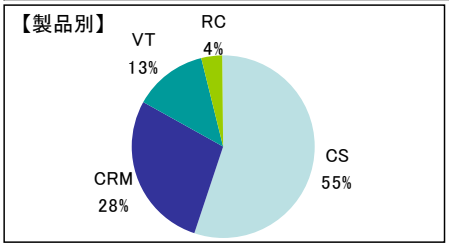
ソーリン・グループ概要①

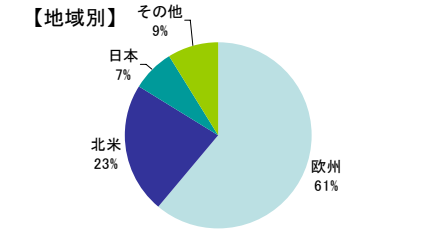
◆社　　名：Sorin S.p.A（グループ本社）
◆本　　社：イタリア　ミラノ
◆上　　場：ミラノ証券取引所
◆従業員数：約4,500名（2006/12末）
◆売　　上：791百万ユーロ（2006/12期）
◆事業内容：心臓血管および腎臓疾患を治療する医療機器を製造販売。
グループ傘下に8つの主要ブランドを持ち、約80カ国で事業を展開。

ソーリン・グループ概要②

◆事業領域と売上構成

事業領域	取扱商品	主要ブランド
Cardiac Surgery	人工肺 人工弁	CARBOMEDICS、COBE MITROFLOW、STOCKERT
Cardiac Rhythm Management	PM、ICD CRT-D	ELA MEDICAL
Vascular Therapy	ステント	SORIN BIOMEDICA、 DIDECO
Renal Care	人工透析器	BELLCO



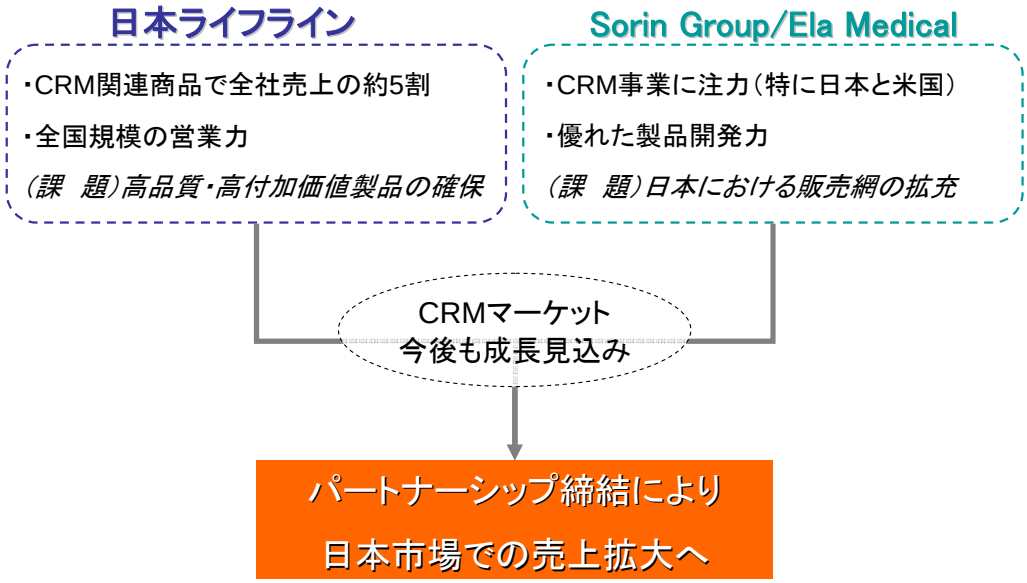


今回、当社が独占販売契約を締結したエラ・メディカル社は、ソーリン・グループの4つの事業領域のうち、Cardiac Rhythm Management（心臓不整脈治療）領域の製品を製造、販売する企業であります。

エラ・メディカル概要

◆社　　名：Ela Medical S.A.S
◆本　　社：フランス
◆従業員数：約1,000名
◆売　　上：217百万ユーロ(06/12期 Sorin CRM部門)
◆事業内容：CRM製品の製造・販売
◆特　　色：R&Dに注力
　　－売上高の約10%超をR&Dに投資
　　－従業員の約25%はR&D部門
　　→高品質・高付加価値製品を製造

エラ・メディカル社との契約締結の狙い



心臓ペースメーカ等のCRM製品におきましては、心臓疾患の増加に伴い需要が高まっている一方、新しい機器の開発競争をはじめ競合企業間の競争が激化しております。
全国規模の販売力を有する当社といたしましては、いかに高機能・高付加価値商品を製造できるメーカーと取引を行うかということが、今後の成長における重要な課題となっておりました。

一方、ソーリン・グループでは、今後成長が期待できる領域としてCRM事業に注力しており、特にヨーロッパに比べ、市場シェアが低い日本および米国での販売強化を図っておりました。

このような中、全国規模の販売力を有する当社と、優れた製品開発力を持つソーリン・グループがパートナーシップを結ぶことにより、日本市場における市場シェア拡大が見込まれることから、今回の合意に至りました。

エラ・メディカル社商品

◆心臓ペースメーカ①

－商品名　「リプライ」

－特　長　世界最小クラス　8cc、長寿命　9年
SafeR搭載
（不必要な心室ペーシングを最少化）

－発売開始　2008年8月予定

現行商品：「シンフォニー」



10.5cc/24g

新商品：「リプライ」



8cc/20g

心臓ペースメーカにおいては、現行商品に比べ小型、長寿命化し、新機能が搭載された新商品「リプライ」の販売開始を、2008年8月に予定しております。

エラ・メディカル社商品

◆心臓ペースメーカ②

ー保険償還価格

「リプライ」にはデュアルチャンバ(Ⅴ)が適用見込み

【ペースメーカ保険償還価格】　（千円）

分類	2007/4	2007/10	2008/4
デュアルチャンバ(Ⅴ)	ー	1,330	1,330(予想)
デュアルチャンバ(Ⅳ)	1,270	1,270	改定により引き下げ見込み
デュアルチャンバ(Ⅲ)	1,260	1,260	
デュアルチャンバ(Ⅱ)	1,222	1,222	
デュアルチャンバ(Ⅰ)	1,110	1,110	

※デュアルチャンバ(Ⅴ)ー新機能を持ったペースメーカに対する新たな分類として2007/10より設定

リプライは、機能面での優位性に加え、保険償還価格の面においても、優位性を有しております。

保険償還価格については、機能に応じた価格分類が設定されており、リプライについては、2007年10月に新たに設定されたデュアルチャンバ(Ⅴ)型が適用されることを見込んでおります。

2008年4月には、保険償還価格の改定が予定されており、価格引き下げが見込まれますが、デュアルチャンバ(Ⅴ)型については、現在の価格がそのまま維持され、価格引き下げによる影響を受けないものと考えております。

エラ・メディカル社商品

◆心臓ペースメーカ③

「リプライ」発売により

－患者・医療機関・当社の3者にメリット

－他メーカー1社（2007/7発売）のみが同一分類適用

→来期は当社と2社による独占市場

－流通価格見直しの機会

現時点で、デュアルチャンバ（Ｖ）型が適用されているペースメーカは、他メーカー1機種のみであり、来期より当社と2社による寡占市場となることが見込まれます。

また、小型化され、機能面でも優れたリプライの発売は、患者さんや医療機関に対しても高い付加価値を提供することになるものと考えております。

エラ・メディカル社商品

◆ICD（植込み型除細動器）

－商品名　「オベイシオ」

－特　長

・世界最小クラス　30.8cc

・PARAD+（不適切な除細動のショックを最小限に抑制）

・SafeR（不必要な心室ペーシングを最少化）

→同機能を搭載した世界初のICD

－発売開始　2007年9月1日より当社発売開始



「オベイシオ」は、世界最小クラスの容量であり、不必要な心室ペーシングを最少化する機能（SafeR）を初めて搭載したICDです。

エラ・メディカル社商品

◆CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）

ー商品名　「パラダイム」

ー特　長

・小型　34cc

・高出力

・SonR

→血行動態をセンサーで捉え自動的に設定を最適化

ー発売開始　2010年3月期（予定）



今後需要の増加が見込まれるCRT-Dにおいても、SonRという独自の機能を有した商品の発売を予定しております。

※CRT-Dとは
心筋梗塞や拡張型心筋症等が原因で、心臓のポンプ機能が著しく低下しており、薬物治療のみでは回復を図ることが困難な重症心不全の患者様に対し、「心臓再同期療法」（Cardiac Resynchronization Therapy）という、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることによりポンプ機能を改善させる治療を行うための機器です。

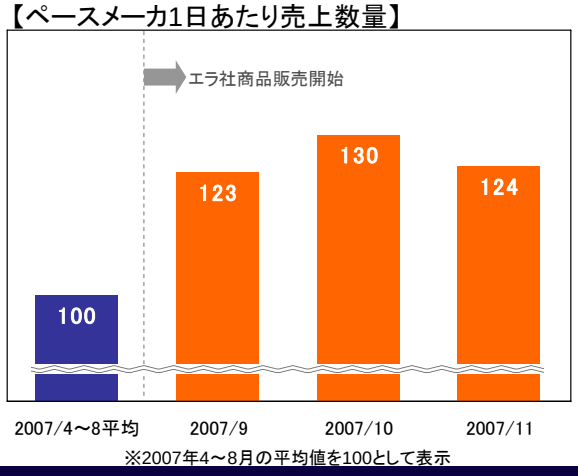
また、CRT-Dは、致死性不整脈の唯一の治療法である除細動の機能を持っており、重症心不全の患者様における死因の約40～50%を占めると言われる、心室細動等の致死性不整脈による心臓突然死のリスクを軽減いたします。

ペースメーカ売上動向①

◆エラ社商品販売後1日あたり売上数量が2～3割増

◆SGJ社合併の効果

【ペースメーカ1日あたり売上数量】



※2007年4～8月の平均値を100として表示

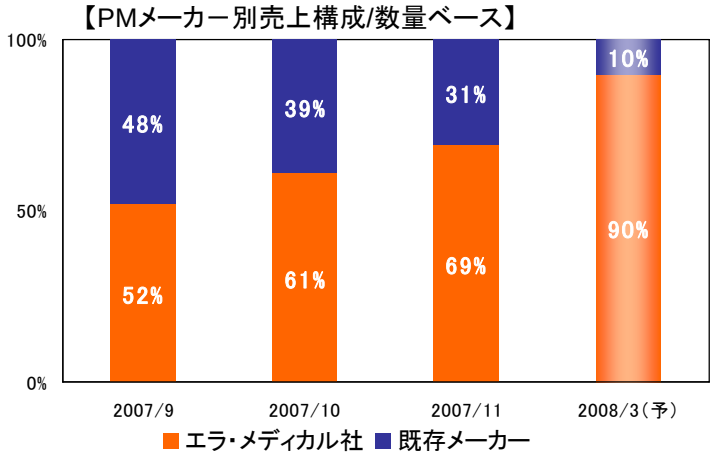
ペースメーカの１日あたりの売上数量につきましては、9月のエラ・メディカル社商品の発売開始により、それ以前（2007/4～8平均）に比べ2～3割の増加が達成されております。

Japan Lifeline Co., Ltd.

ペースメーカ売上動向②

◆当社顧客のエラ社商品への移行は順調

◆2008/3月末には売上数量の9割はエラ社商品に



2007/12/4 26

既存商品からエラ・メディカル社商品への置き換えについても順調に進んでおり、2008年3月末には、9割がエラ・メディカル社商品になるものと見込んでおります。

ペースメーカ来期見込み

◆エラ社商品にほぼ切り替え完了見込み

→SGJ顧客＋当社顧客

→仕入条件改善効果がフルに寄与

◆新商品「リプライ」（2008/8発売予定）

→新規顧客獲得

→保険償還改定の影響回避

・市場シェア拡大（シェア2位へ）

・粗利益率改善

【ペースメーカ市場シェア/数量】

会社名	シェア
日本メドトロニック	34.1%
日本ライフライン	
ゲッツブラザーズ	18.7%
日本ライフライン	14.8%
フクダ電子	9.8%
ソーリン・グループ・ジャパン	6.8%
日本光電	6.2%
日本ガイダント	5.6%
日本ビタトロン	2.8%
その他	1.2%

※アールアンドディ「医療機器・用品年鑑2007」を基に作成

※集計期間は2006/1～2006/12

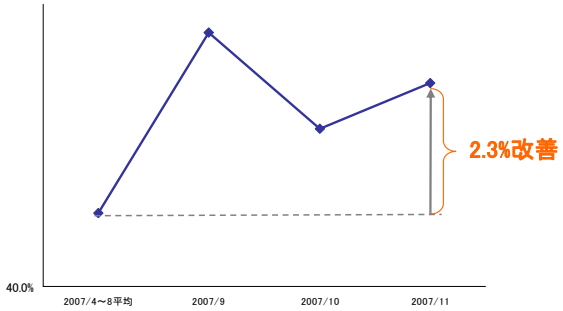
来期は、ペースメーカ売上のほぼ大部分がエラ・メディカル社商品となることから、仕入条件改善による粗利益率向上が見込まれるとともに、新商品「リプライ」の発売開始によりシェア拡大を図ってまいります。

リズムディバイス動向

◆徐々に粗利益率改善の効果

◆CRT-D、リードは引き続き既存メーカ商品を販売

【リズムディバイス粗利益率/月】



リズムディバイス全体としても、エラ・メディカル社商品発売に伴う効果として、まだ限定的ではありますものの、粗利益率は改善傾向にあります。

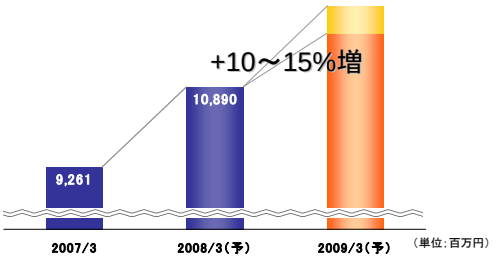
リズムディバイス来期見込み

◆ペースメーカ,ICDが通期で寄与

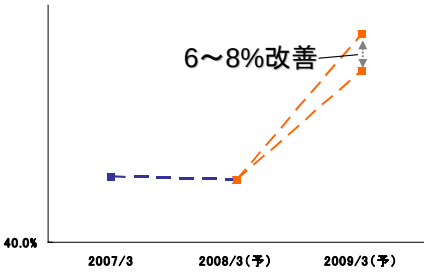
◆エラ社製ICDリード発売予定（08/3期 4Q）

➡売上高増に加え粗利益率改善

【リズムディバイス売上高見込み】



【リズムディバイス粗利益率見込み】



※2008年4月に実施予定の保険償還価格改定の影響は織り込んでおりません。

リズムディバイスの来期見込みにつきましても、エラ・メディカル社製のペースメーカおよびICDに加えICDリードの販売開始も寄与することで、売上数量増と粗利益率の改善を見込んでおります。

自社製造製品の動向

08/3期中間売上高　1,744百万円（売上比率　17.9%）

◆EP（電気生理用）カテーテル（前期比19.5%増）
　－「EPスター」シリーズ新製品の投入
　－韓国への輸出（08/3期 4Q予定）
　　→アジア市場を見据えた展開

◆アブレーションカテーテル（前期比21.2%増）
　－引き続きトップシェアを維持

◆ガイドワイヤー（前期比1.4%増）
　－「アスリート・イール」のラインナップ充実へ



新製品「EPスター・リベロ」
ABLカテーテルとのシナジー効果が期待される肺静脈マッピング用カテーテル

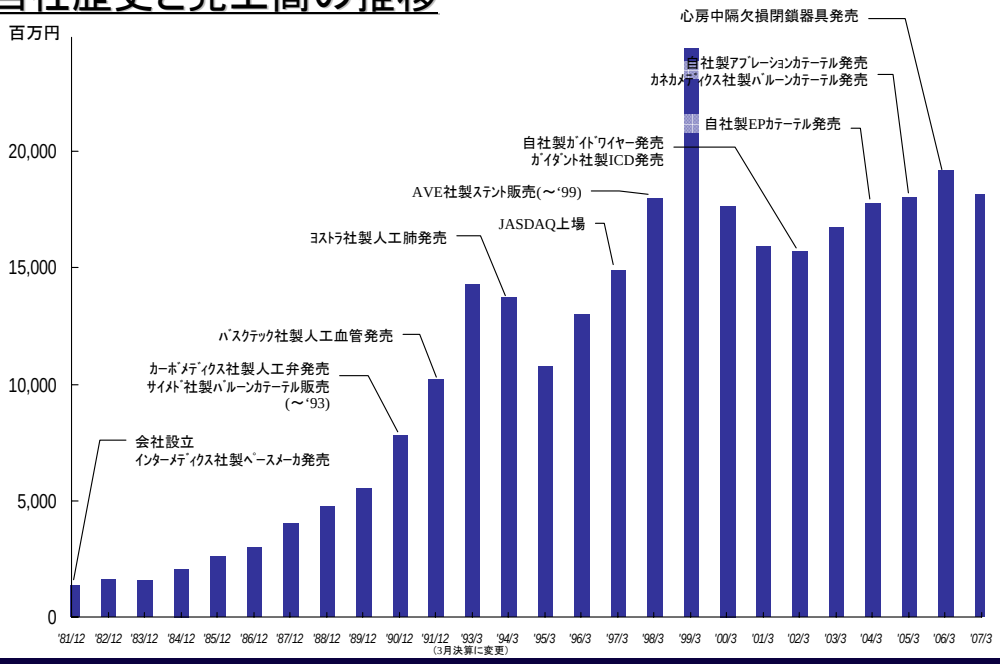
自社製造製品の売上高は、前年同期比20%増の1,744百万円となり、全社売上高に占める割合は、17.9%となりました。
また、EPカテーテルにおきましては、海外展開の準備を進めております。

Japan Lifeline Co., Ltd.

会社概要

【商　　号】日本ライフライン株式会社
【代 表 者】代表取締役社長　鈴木　啓介
【本　　社】東京都豊島区池袋2-38-1
【設　　立】1981年2月6日
【上　　場】1997年12月8日（JASDAQ）
【証券コード】7575
【事業内容】医療機器の輸入、製造および販売
【資 本 金】2,115百万円
【従業員数】429名（2007年9月30日現在）
【事 業 所】営業所（25）、出張所（3）、商品センター
リサーチセンター、浮間ファクトリー
天王洲ACCADEMIA（研修センター）

当社歴史と売上高の推移

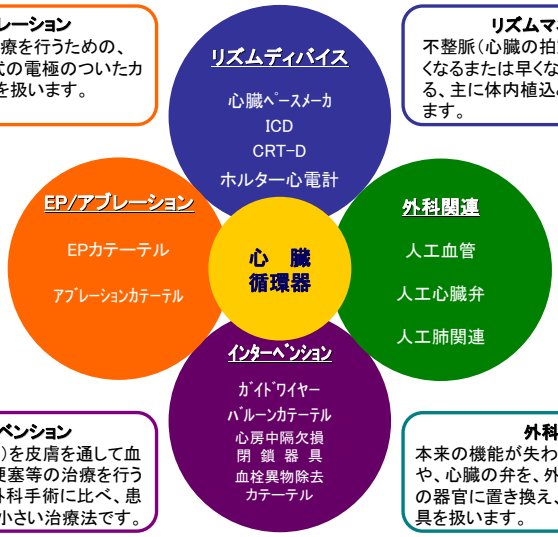


事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムディバイス、EP/アブレーション、外科関連、インターベンション、の4つに大別されます。

EP/アブレーション
不整脈の検査や治療を行うための、ディスポーザブル式の電極のついたカテーテル（細い管）を扱います。

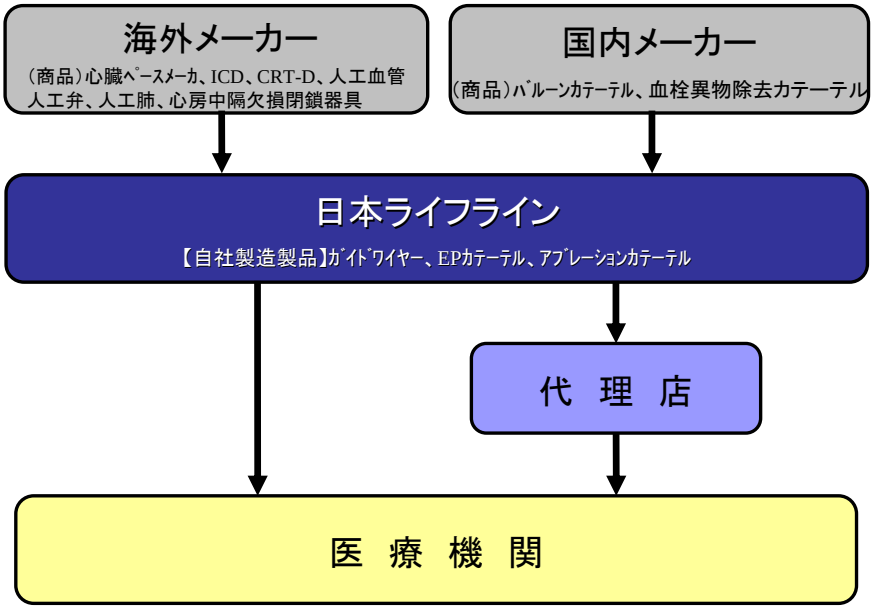
リズムマネジメント
不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなるまたは早くなる状態）を治療する、主に体内植込み型の器具を扱います。



インターベンション
カテーテル（細い管）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者さんへの負担が小さい治療法です。

外科関連
本来の機能が失われてしまった血管や、心臓の弁を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

商品の流通経路


海外メーカー
（商品）心臓ﾍﾟｰｽﾒｰｶ、ICD、CRT-D、人工血管
人工弁、人工肺、心房中隔欠損閉鎖器具
国内メーカー
（商品）ﾊﾞﾙｰﾝｶﾃｰﾃﾙ、血栓異物除去カテーテル
日本ライフライン
【自社製造製品】ｶﾞｲﾄﾞﾜｲﾔｰ、EPカテーテル、ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝｶﾃｰﾃﾙ
代 理 店
医 療 機 関

商品紹介:リズムディバイス



心臓ペースメーカ
(Ela Medical社製)

心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓の拍動が異常に早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD(植込み型除細動器)
(Ela Medical社製)



ホルター心電計
(Ela Medical社製)

長時間の心電図を記録することで、短時間で出現しない異常や日常生活での心臓の状態を記録します。

商品紹介：EP/アブレーション



アブレーションカテーテル

（自社製造製品）

頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。



EP（電気生理用）カテーテル

（自社製造製品）

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

商品紹介：外科関連



人工心臓弁

（Carbomedics社製）

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなった場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。



人工血管

（Vascutek社製）

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。

人工弁付血管

(Carbomedics社製)



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

人工肺

（Maquet Cardiopulmonary社製）



心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。

商品紹介：インターベンション



心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテル

（カネカメディックス社製）

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



先端イメージ図

ガイドワイヤー

（自社製造製品）

心房中隔欠損閉鎖器具

（AGA Medical社製）



商品名：「アンプラッツァー」

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）を、従来の外科手術ではなくカテーテルを用いて治療します。

血栓異物除去用カテーテル

（ニプロ社製）

血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去するカテーテルです。バスケットがフィルター型のため血流を確保することができます。



商品名：「フィルトラップ」

■ご注意事項
本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合せ先

日本ライフライン株式会社
経営企画室　山田
電話　03-3590-1618
Mail　ir@japanlifeline.com
URL　http://www.jll.co.jp



... for patient comfort.